

A Semantic Analysis of Existential Sentences with “V-zhe” and “V-le” in Mandarin Chinese

YOKOYAMA Masako

Keywords: existential sentence, V-zhe, V-le, predicate logic, formal semantics

Abstract

This paper discusses the meaning of existential sentences with “V-zhe” and “V-le” in Mandarin Chinese. Chinese existential sentences are unique sentences that have a location placed in the subject position and an ‘existing’ thing or person placed in the object position, which is different from a sentence that has the actor placed in the subject position.

All existential sentences have a common meaning of “a thing that (or person who) exists in a place”. This paper analyzes existential sentences with “V-zhe” and “V-le” from a semantic viewpoint, proposes logical structures of existential sentences described predicate logic, and considers certain issues from previous studies of existential sentences.

中国語の“V 着”、“V 了” 存在文の意味分析

横 山 昌 子

中国語の存在文は、動作主が主語の主述文とは異なる特徴を持つ特殊な文である。存在文は、主語位置に場所を表す名詞句が置かれ、目的語の位置には存在する主体が置かれ、意味的には、ある場所にあるものが存在することを表す。同様の構造的特徴を持つ文に、ある場所にあるものが出現することを表す出現文と、ある場所からあるものが消失することを表す消失文があり、これらを総称して存現文と呼ばれている。本論では、意味論の観点から中国語の存在文の意味構造を分析し、存在文について議論されているいくつかの問題について考察する。意味分析には、形式意味論の述語論理式を用いる。

1 これまでの議論と本論で検討する問題

存在文については、これまで多くの研究者によって議論が行われてきた。初期の研究では、主として文法構造上の問題が議論の中心であったが、80年以降存在文の範囲や分類について、新たな視点からの主張がなされたことでさらに研究が深まった。それまで、存在文は静止状態を表すと考えられてきたが、この時期存在文には動的なものもあるという指摘がなされ、静態存在文と動態存在文の区別が主張された（宋玉柱 1982 など）。本節では、これまで行われてきた議論を概観し、本論で検討する問題を提示する。

1.1 存在文の構造

中国語の動作行為を表す主述文は、動作主を主語として「主語（動作主）＋動詞＋目的語（対象¹⁾」の形式で表されるが、存在文は文頭には必ず場所を表す名詞句が置かれ「（場所）＋動詞＋（存在物）」の形式で表される。

- (1) 他 写了 一篇论文。(一般の主述文)

動作主 動詞 対象

- (2) 墙上 挂着 一幅画。(存在文)

場所 動詞 存在物

ここで問題になるのは、存在文の文頭に現れる場所を表す名詞句と動詞の後に現れる存在物を表す名詞句の構造上の位置づけである。存在物は主語で存在文の中心構造は「V+S」であるのか、あるいは存在物が目的語で「V+O」の構造であるのか。また、文頭の場所詞は主語であるのか、あるいは連用修飾語（状語）であるのか。これについて、初期の研究では、一般の主述文に対し存在文を無主語文とする見方が優勢であった。存在文を無主語文とする考えでは、動詞に後置される名詞句は動作主あるいは対象であり、それぞれ主語、目的語と位置付けられた²⁾。

- (3) 床上躺着一个人。

主語

- (4) 桌子上放着一本书。

目的語

その後、構造上の主語や目的語と意味役割は動詞との意味関係によって異なるという理論が展開されたことで、存在文も場所名詞句を主語とする主述文であるとする見方が多くの研究者によって示された。筆者も存在文の文頭の場所詞は主語であり、存在文は構造的には主述文の一つであると捉える。

1.2 存在文の定義と範囲

本論では、前述の構造上の見方を踏まえ、存在文を次のように定義する。存在文は、「ある場所に、ある事物が存在する」ことを表す。存在文は、主述構造ではあるが、他の主述構造と大きく異なる特徴は、主語には必ず場所が示され、目的語にはその場所に存在する事物が置かれるという点である。

存在文の範囲については、今日までに統一的な見方が確立していないが、次のような文が存在文に含まれることは多くの研究者によって認められている。

① “有” 存在文：[場所主語 + 有 + 存在目的語]

(5) 桌子上有一本书。

② “是” 存在文：[場所主語 + 是 + 存在目的語]

(6) 山下是一片绿油油的稻田。(潘文 2006)

③ “V 着” 存在文：[場主語語 + V 着 + 存在目的語]

(7) 门口站着一个老人。(范晓 2009)

④ “V 了” 存在文：[場所主語 + V 了 + 存在目的語]

(8) 河边上围了两三千人。(《实用现代汉语语法》2001)

⑤ 「名詞述語」存在文：[場所主語 + 名詞述語]

(9) 山下一片好风光。(宋玉柱 1982)

⑤の「名詞述語」存在文については、「定語 + 名詞」が述語ではなく、動詞の“有”が省略されている“有”存在文であるという見方もあるが、いずれにせよこのような文もある場所に事物が存在することを表しているので、現在ではこの形式の文も存在文の一種であるとしている研究者が多い。これらの他に、宋玉柱(1991)は、経験を表す“过”を伴う「場所名詞 + V 过 + 名詞」の文型も存在文に含まれると述べている。

(10) 窗子上曾经贴过两张剪纸，那是妹妹从海边的家乡寄来的。

1.3 存在文の形式と意味

前述したように、存在文が一般の主述文と区別されるのは、文形式が「場所＋動詞＋着（了）＋名詞」であることである。しかし、朱德熙（1962）は「句法结构」の論述の中で、以下の文は同一形式ではあるが、文法上の性質が異なっていると述べている。

- (11) 树上 结着 苹果。

場所 V 着 目的語

- (12) 台上 唱着 戏。

場所 V 着 目的語

朱德熙によれば、(11) の文は“苹果结在树上”に変換できるが(12) の文はできない。このことから、(11) の文は存在を表していて、事物の位置を説明し、空間に着目しているが、(12) の文は動作行為の持続を表していて、時間に着目しているとしている。同形式で存在文ではない文としては、さらに次のような文が挙げられている。

- (13) 屋里开着会。

- (14) 心里惦记着孩子。

宋玉柱（1988）は、朱德熙の指摘は正しいとし、これを“假存现句”と呼んでいる。宋玉柱は、これらの文が存在文と異なることは、“有”存在文へ変換可能でないことから明らかであると述べている。なぜなら、“着”を伴う存在文は、静態でも動態でも“有”を用いた存在文に変換できるためである。

- (15) 桌子上放着一本书。→桌子上有一本书。

- (16) 天上飞着一只鸟。→天上有一只鸟。

一方、次のような文は、“有”存在文に変換できないと指摘している。

- (17) 台上唱着寿戏。→*台上有寿戏。

- (18) 录音机里播放着歌星音乐。→*录音机里有歌星音乐。

(19) 屋里开着会。→*屋里有会。

1.4 静態存在文と動態存在文

80年代以降の存在文の研究で議論となっている問題の一つに、「静態存在文」と「動態存在文」の定義と識別の問題がある。それ以前の現代中国語の存在文の研究においては、“着”を伴う動詞を含む存在文が典型的な存在文とされてきた。この形式の存在文の特徴は、静的な状態を表し、動作の進行を表さないことである³⁾。これに対し、宋玉柱(1982)は次のような例を挙げ、静的状態の特徴がすべての存在文に当てはまらないことを指摘した。

(20) 天边游荡着几缕焰红的云彩。

(21) 小路上走着几只活泼的“麻雀”。

(22) 只见他额头上滚动着一颗颗汗珠。

宋玉柱によれば、これらの文中の動詞は動作行為を表していて、動詞が伴う“着”は動作の進行を表している。そのため、これらの文は事物の静的な状態を表していないと述べている。宋玉柱は、これらの文が静的な状態を表す存在文と同様に「場所+V 着+事物」の文型を持つことから“V 着”が構成する存在文の一種であるとし、“V 着”が構成する存在文は静的な状態を表す「静態存在文」と上記の例のような「動態存在文」に分けられると主張した。確かに、これらの文は朱德熙(1962)が指摘した存在文と同一の文型でありながら存在を表していない“台上唱着戏”のような文とも異なり、存在を表す“有”構文に変換することが可能である。

(23) 天边有几缕焰红的云彩。

しかし、これらの文が動作の進行を表しているとするならば、これらを存在文と考えることは適切だろうか。ある文が表す場面が「動作の進行」と「存在」の両方を表しているというのは論理的に矛盾する。

1.5 文の意味と動詞の意味特徴

陆俭明 (2005) は、「名詞 [場所] + 動詞 + 着 + 名詞」の文型を持ち階層構造も同一である次の文について、文の表す意味が異なることを変換分析法によって分析している。

(24) a. 戏台上 放着 鲜花。

b. 戏台上 演着 京戏。

1	2	1-2 主述
3	4	3-4 述目

上記の文は、文型も文の階層構造も同一であるが、(a) の文は存在を表し、静態的であり、(b) の文は活動を表し、動態的である。文変換分析法によって分析すると、(a) の例のような文の意味を持つ「名詞 [場所] + 動詞 + 着 + 名詞」の形式 ([A] 式) は「名詞 + 動詞 + 在 + 名詞 [場所]」の形式 ([C] 式) に変換できる。

(25) a. 戏台上放着鲜花。→ 鲜花放在戏台上。

b. 台上坐着主席团。→ 主席团坐在台上。

一方、(24) の (b) のような文の意味を持つ「名詞 [場所] + 動詞 + 着 + 名詞」の形式 ([B] 式) は、「名詞 [場所] + 正在 + 動詞 + 名詞」の形式 ([D] 式) に変換できる。

(26) a. 戏台上演着京戏。→ 戏台上正在演京戏。

b. 门外敲着锣鼓。→ 门外正在敲锣鼓。

陆俭明は、このような同一形式の文の意味構造が異なるのは、動詞の意味特徴が異なるからであると述べている。“坐、站、蹲、躺、跪、立、贴、放、写、挂、别、戴、钉、绣”などの動詞に共通するのは、「附着させる」(“使附着”) という意味であり、一方“演、敲、下、跳、上、放映、熬”などは「附着させる」という意味がない。陆俭明は、動詞の意味特徴の違いが異なる変換方式になる原因であると論述している。

また、藩文（2006）は宋玉柱が述べている存在文の動態と静態の違いは、動詞の意味特徴の対立にあるとしている。

(27) a. 树下躺着一位老人。

b. 操场上跑着一群学生。

これらの文は、宋玉柱の見方に従えば（a）は静態存在文、（b）は動態存在文であるが、動詞の意味特徴が異なる。藩文は、もし存在文の動詞が[+移動] [-付着] の意味特徴を持つならば、その存在文は「移動状態存在文」であり、[-移動] [+付着] の意味特徴を持つならば、「非移動状態存在文」であると分析している。このことから、これらの文の違いは動詞の意味的な違いにより生じたものであり、これらの文は共に事物の存在状態を表しているとし、存在文を静態と動態に大別するのは適切ではないと述べている。

これらの分析から、存在文を他の文から区別する基準は文型のみではなく、動詞の意味特徴が関係していることがわかる。

1.6 本論で検討する問題と分析方法

現代中国語の存在文についてはこれまで多くの研究が行われているが、議論が不十分な問題の一つに「動態存在文」の問題がある。宋玉柱（1982）は静的な状態を表す存在文とは異なる動的な存在文を「動態存在文」と呼び、それまで扱われてきた存在文を「静態存在文」として区別した。宋玉柱は「動態存在文」の“V 着”は動作の進行を表すと述べているが、存在文が表す場面状況は「ある場所にある事物が存在する」ということであり、動作が進行することを表す場面状況と同時に成立できない。「動態存在文」については存在文の分類中でどのように位置づけられるのか、静態存在文との違いをどのように識別するのかという問題が議論されてきたが、「動態存在文」が存在文であるのかについて、存在文の本質的

な意味の観点から検討したい。

また、明確な説明がなされていないもう一つの問題として、動詞が“了”を伴う存在文の解釈の問題がある。本論ではこの形式の存在文を“V 了”存在文と呼ぶことにする。“V 着”、“V 了”存在文については、多くの“V 着”存在文が“着”を“了”に変えても文が成立するとされている。この二つ形式の存在文は意味が変わらないとする研究者と、存在文中の“着”と“了”はもともとの意味が異なるので、これらは意味上同じではないとする研究者がいる。

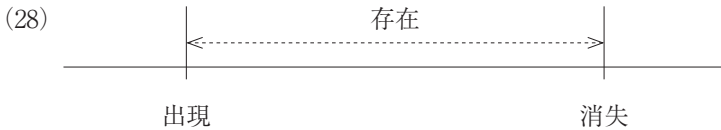
本論では、存在文が表す意味を明らかにするために、形式意味論の述語論理を用いて意味構造を記述する。先行研究でも指摘されているように、存在文は動詞の意味特徴と深く関係している。本論では、存在文中の動詞の持つ意味特徴に着目し、異なる意味特徴を持つ動詞が構成する存在文の意味構造を論理式で記述し、動詞との関係を考察する。

2 存在文の意味構造

“V 着”、“V 了”を含む存在文と動詞の意味特徴の関係を考察するにあたり、まず“V 着”存在文、“V 了”存在文の持つ基本的な意味構造をどのように記述できるかを考えてみる。意味構造の記述には、形式意味論の述語論理を応用する。

中国語の存在文は、「場所 (N1) + 動詞 (V) + 目的語 (N2)」構造として現れ、意味的には「ある場所 (N1) に、ある事物 (N2) が、ある状態で存在する (V)」ことを表す。目的語の位置に現れる事物 (N2) は、動詞との関係においては「動作主」あるいは「対象」(または「作為」)の意味役割を持つが、存在文においてはいずれも存在する主体としての意味を持つ。つまり、存在文の動詞 (V) と目的語 (N2) が形成する構造は、

一般の動詞述語文の持つ「動詞（V）＋目的語（N2）」とは異なる構造であり、統語的には非対格動詞構造と捉えられる。このような構造を持つ文は存在文の他に出現文と消失文がある。出現文は「ある場所に、ある事物が出現する」ことを表し、消失文は「ある場所から、ある事物が消失する」ことを表す。存在とは事物が出現した後、事物が消失するまで事物が存在することであり、存在文と出現消失文の関係は次のように捉えられる。

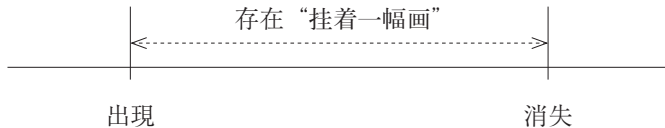


一般動詞を用いた存在文は、ある場所に、事物が「ある状態」で存在することを表しているが、この「ある状態」は存在文中の動詞に関係している。たとえば次の文で考えてみよう。

(29) 墙上挂着一幅画。

この文は、「壁に一枚の絵が掛かっている」という意味であるが、この文の発話時点で壁に一枚の絵が存在するのは、「誰かが壁に絵を掛ける」という行為を行った結果の状態が続いているからである。すなわち、“一幅画”（一枚の絵）という事物は“挂”（掛ける）という時点で出現したことを意味している。そして、“一幅画”は“墙上”（壁の上）に留まり、取り除かれる時点（消失）までそこに存在することになる。

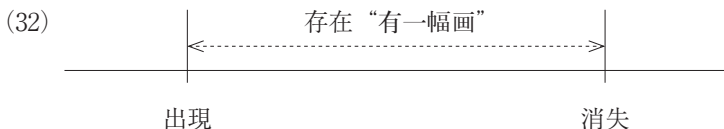
(30) “挂一幅画”



この文は、述語部分に動詞“挂”を用いることで事物がどのような状態で存在しているかを表している。もし、事物が存在していることのみを表す場合には“有”を用いて表現できる。

(31) 墙上有一幅画。

“有” 用いた存在文は、次のように捉えられる。



“有” を用いた (31) の存在文の意味構造を論理式で表してみよう。存在文の基本的意味は「ある場所にあるものがある」ということである。したがって、この文では「壁の上に絵がある」（“墙上有画”）という意味が第一式に表される。これを論理式で表すと、「有’（墙上，画）」となる。さらに、この文には「絵が一枚ある」という意味が含まれている。これを第一式に連鎖させて記述すると「有’（画，一幅）」となる。「有’（墙上，画）」と「有’（画，一幅）」の意味は一つの文の中で同時に成立するので、これを連言（&）で結合すると次のような複合命題として記述できる。

(33) 有’（墙上，画）& 有’（画，一幅）

この式は、「壁の上に絵があり、かつ絵が一枚ある」という意味を表している。第一式では「存在」が表示され、第二式では「量化」が表示されている。

次に、“V 着” が用いられている (29) の存在文“墙上挂着一幅画”を、論理式で表してみよう。この文を、[出現→存在] の出来事順に記述すると次のようになる。

〈論理式 1〉

(34) 挂’（u，画）& 有’（画，一幅）& 到’（一幅，墙上）& 有’ {到’（一幅，墙上），着}

この式の第一式「挂’（u，画）」は「誰かが絵を掛ける」という動作を表している。これは、事物の出現時の動作を表している。次の式「有’（画，一幅）」は「絵が一枚ある」という量を表している。次の式「到’（一幅，

墙上)」は「その一枚（の絵）が壁に至る」という場所への定着（結果）を表し、次の式「有’ { 到’（一幅，墙上），着 }」は定着（結果）が持続することを表し、これが事物の存在を表している。

しかし、この文が表しているのは「壁に一枚の絵が掛かっている」という存在の意味であり、動作の意味は直接含まれていない。したがって、上記の式はこの文の意味構造を適切に表していない。では、この文の意味構造はどのように表されるべきか。前述のように、この文は、“有”を用いた存在文に変換できる。そこで、“有”存在文の論理式を基本に記述してみよう。“有”存在文の論理式で示したように、単純な存在文の意味は、まず「ある場所に事物が存在する」ことが第一に記述される。つまり、この文の論理式は「壁に絵がある」という存在の意味が初めに表示される。そして、動詞“挂”（掛ける）が表しているのは「事物がある状態で存在する」という状態の意味であり、存在の有り様を説明していると捉えられる。これを論理式で記述すると、次のようになる。

〈論理式 2〉

(35) 有’（墙上，画）& 有’（画，一幅）& 由’ { 一幅，u，挂’（u，一幅）}& 有’ { 挂’（u，一幅），着 }

この論理式は、第一式の「有’（墙上，画）」がまず一枚の絵が壁の上に存在することを示し、第二式の「有’（画，一幅）」が存在物の量を表している。第三式の第三項「挂’（u，一幅）」は「誰かが一枚（の絵）を掛ける」という事物の出現時の動作を表している。一つの文の意味を表す論理式は、各部分式が同時に成立する必要がある、そのためには各部分式が連鎖する必要がある。しかしこの動作を表す「挂’（u，一幅）」は直接前の式と連鎖できない。そこで「～ガ～ニヨッテ～コトヲサレル」という論理関係を表す三項関数「由’」を用いて表すと「由’ { 一幅，u，挂’（u，一幅）}」と表記できる。これにより、この式の第一項の「一幅」が前の式の

第二項の「一幅」と連鎖する。第四式の「有’ {挂’ (u, 一幅), 着}」は、誰かが一枚（の絵）を掛け、その結果一枚（の絵）が壁に付着している状態が持続していることを示している。このように、“V 着”を含む存在文は、「ある場所にある事物が存在する」という「存在」の意味に、動詞の結果の持続が表す「状態」の意味が加わっている意味構造を持つ。

“墙上挂着一幅画。”の“着”を“了”に入れ替えた文の論理式も記述して見よう。

(36) 有’ (墙上, 画) & 有’ (画, 一幅) & 由’ {一幅, u, 挂’ (u, 一幅)} & 有’ {挂’ (u, 一幅), 了}

この式は、前半の「有’ (墙上, 画) & 有’ (画, 一幅)」が「一枚の絵が壁に存在する」ことを示し、後半の「由’ {一幅, 挂’ (u, 一幅)} & 有’ {挂’ (u, 一幅), 了}」が「絵を掛けるという動作が完了した状態にある」という意味を加えている。

3 存在文の意味構造と動詞の意味特徴

一般動詞が用いられる存在文の典型的な形式は、動詞が“着”を伴う「NP (場所) + V 着 + NP (存在物)」の文型である。“V 着”存在文は、「ある場所にあるものがある状態で存在する」ことを表し、“V 着”は文中において「ものがどのような状態で存在しているか」を表している。このような存在の状態を表す“V 着”の“着”は、動作そのものの持続ではなく、動作の結果として事物がその場所に付着すること、あるいは動作の結果状態が持続していることを表す。時相の観点から見ると、存在文中のこれらの“V 着”は状態動詞と捉えられる。状態動詞は、動作内の時相構造に開始点と終息点を持たない「V₀₀」の動詞である。ものが存在することを表す動詞“有”も「V₀₀」の時相構造であり、“V 着”が「存在」

の意味と結びつくのは同じ時相構造を持つためであると考えられる。「存在」と「状態」は時間と共に変化することはなく、静的な事態を表している。

“V 着”存在文に用いられる動詞は、一定の意味特徴を持つ動詞に限られている。李临定（2011）⁴⁾は、存在文中の動詞を①“坐”類、②“垂”類、③“长”類、④“挂”類、⑤“绣”類、⑥“戴”類、⑦“飘”類、⑧“～満”類に分類している。これらの動詞のうち、①“坐”類、②“垂”類、③“长”類は自動詞であり、存在文中では動作の結果、動作主の姿勢や、身体の一部の様態が持続することを表している。④“挂”類、⑤“绣”類、⑥“戴”類は他動詞で、存在文中では動作の結果、動作の対象物がある場所に付着して持続することを表している。⑦“飘”類は、他の動詞とは異なり、動作そのものの持続を表している。⑧は、“～満”は動詞が結果補語“満”を伴うことで状態動詞化していると捉えられる。

宋玉柱（1982）は、存在文には静的な状態を表す存在文と動的な存在文があり、動的な存在文は状態ではなく動作の進行を表していると述べている。宋玉柱の述べている静態、動態の観点から見ると、上記の①“坐”類、②“垂”類、③“长”類、④“挂”類、⑤“绣”類、⑥“戴”類、⑧“～満”が用いられている文は静態存在文で、⑦“飘”類が用いられている文は動態存在文である。しかし、意味上「存在」と「動作の進行」が同時に成立するとする見方は矛盾する。本論では、“飘”類については、静止状態ではないが、動作が持続している状態を表していると捉える（このことについては、次節で詳しく述べる）。“飘”類が他の動詞類と異なるのは、動詞の意味特徴の違いによるものである。このことは、“飘”類以外の動詞類の存在文では、動詞が伴う“着”を“了”に換えても成立するが、“飘”類の存在文中の“着”は“了”に換えられないことも関係する。

本節では、李临定（2011）が提示している動詞類のうち、存在物の静止

状態を表している①～⑥の動詞類について意味構造を論理式で記述し、動詞の意味特徴と存在の意味との結合について考察する。本論では“V 着”、“V 了を含む存在文に焦点を当て検討するため、動詞が結果補語の“満”を伴う存在文については考察の対象としない。

3.1 姿態の持続を表す：“坐”類

この類の動詞は、動作の結果もたらされた動作主の姿態が持続することを表す。この類の動詞としては、坐、站、立、睡、躺、住、蹲、跪、趴、钻、挤、跟、围、骑、等、守、藏、埋伏などがある。

まず、動詞“立”（立つ）＋“着”が用いられている次の例を見てみよう。

(37) 下游浅滩上立着几只仙鹤，雪白雪白的。（李临定 2011：杨朔）

（下流の浅瀬の上に何羽かのタンチョウが立っている、真っ白だ。）

“下游浅滩上立着几只仙鹤”の部分の意味構造を論理式で表記すると次のようになる。

(37) 有'（下游浅滩上，仙鹤）& 有'（仙鹤，几只）& 立'（几只）& 有' {立'（几只），着}

この式は、「下流の浅瀬にタンチョウがいて、タンチョウは何羽かいて、何羽かが立ち、何羽かが立っているという姿態（＝状態）が持続している」という意味を表す。最初の部分式の「有'（下游浅滩上，仙鹤）」は存在文の基本的な意味である「ある場所に、あるものが存在している」という意味を表している。「有'」は「（ある場所）に（あるもの）がある」という「存在」を表す二項関数で、第一項は場所、第二項は存在物を表している。第二式の「有'（仙鹤，几只）」は存在物の量を表している。第三式の「立'（几只）」は事物の出現時の動作を表し、第四式の「有' {立'（几只），着}」はその動作の結果姿態が持続しているという「存在の状態」を

表す。

次の例文は、“蹲”（しゃがむ）＋“着”が用いられている。

(38) 热炕头上蹲着只猫。(李临定 2011：杨朔)

(オンドルの上に猫がしゃがんでいる。)

この文の意味構造を論理式で記述すると次のように表示できる。

(38') 有' (热炕头上, 猫) & 有' (猫, 一只) & 蹲' (一只) & 有' {蹲' (一只), 着}

この式は、「オンドルに猫がいて、猫は一匹いて、一匹がしゃがみ、しゃがむという姿態（＝状態）が持続している」という意味を表す。「有' (热炕头上, 猫)」が存在を表し、「有' (猫, 一只)」が存在物の量を表し、蹲' (一只) が事物の出現時の動作を表し、「有' {蹲' (一只), 着}」が動作の姿態が持続しているという「存在の状態」を表す。

次に、動詞の後に“着”ではなく“了”が用いられている例を見てみよう。李临定（2011）は、この類の動詞は“着”だけではなく“了”も伴えると述べている。

(39) 湖边石凳上坐了一对男女, 可能是夫妻。(李临定 2011：茹志鹃)

(湖のほとりの石のベンチの上に一組の男女が座っている、たぶん夫婦だろう。)

この文を論理式で記述すると次のようになる。

(39') 有' (湖边石凳, 男女) & 有' (男女, 一对) & 坐' (一对) & 有' {坐' (一对), 了}

この式は、「湖のほとりの石のベンチの上に、男女がいて、男女は一組いて、その一組が座り、一組が座るという動作が完了したという状態にある」という意味を表す。式中の「有' (湖边石凳, 男女)」が存在を表し、「有' (男女, 一对)」が存在物の量を表し、「坐' (一对)」が事物の出現時の動作を表し、「有' {坐' (一对), 了}」は動作の完了を表している。存

在文の意味構造の中では、有' {坐' (一对), 了} は“坐” (座る) という動作の完了の後に、「座っている」姿勢が持続していることを表していて、「湖のほとりの石のベンチの上に一組の男女が座っている」という存在の有り様を表している。

次の文は、“围” (囲む) という動詞の後ろに“了” 用いられている。

(40) 远远看去, 街上这里围了一大团人, 那里围了一团人。(李临定 2011: 丁玲)

(遠くから見ると、通りのこちらに大勢の人が取り囲んでいて、あちらに大勢の人が取り囲んでいる。)

この文の“街上这里围了一大团人” の部分を論理式で記述すると次のようになる。

(40') 有' (街上这里, 人) & 有' (人, 一大团) & 围' (一大团) & 有' {围' (一大团), 了}

この式は、「通りのこちらに人がいて、人は大勢いて、大勢が取り囲み、大勢が取り囲むことが完了したという状態にある。」という意味を表している。「有' {围' (一大团), 了}」は、“围” (取り囲む) という動作が完了したあとに、「取り囲んでいる」という姿が持続していることを表す。

3.2 残留状態の持続を表す：“垂” 類

残留の意を表す状態動詞としては、垂、积、倒、残留、存在、停、落などがある。

(41) 乍一看, 还是那么细条条的, 脖子后垂着两根小辫。(李临定 2011: 杨朔)

(ちょっと見たところ、やはりとてもほっそりしていて、首の後ろにお下げが二本垂れている。)

“脖子后垂着两根小辫” の意味構造を論理式で記述すると次のようにな

る。

(41') 有' (脖子后, 小辮) & 有' (小辮, 两根) & 垂' (两根) & 有' {垂' (两根), 着}

この式は、「首の後ろにお下げあり、お下げは二本あり、(その) 二本が垂れ、二本が垂れる姿 (= 状態) が持続している」という意味を表す。「有' (脖子后, 小辮)」は存在を表し、「有' (小辮, 两根)」は存在物の量を表し、「垂' (两根)」は事物が出現する動作を表し、「有' {垂' (两根), 着}」は動作の後の姿が持続していることを表している。

次の例を見てみよう。

(42) 老田头两只眼睛里停着两颗泪珠子。(李临定 2011: 周立波)

(田爺さんの両目には、二粒の涙のしずくが留まっている。)

この文を論理式で表すと次のようになる。

(42') 有' (老田头两只眼睛里, 泪珠子) & 有' (泪珠子, 两颗) & 停' (两颗) & 有' {停' (两颗), 着}

この式は、「田爺さんの両目には、涙のしずくがあり、涙のしずくは二粒あり、(その) 二粒が留まり、二粒が留まる姿 (= 状態) が持続している」という意味を表す。

このような残留状態を表す動詞は、後ろに“了”を伴うことができる。

(43) (井) 底上积了好多干树叶。(李临定 2011: 赵树理)

(井戸の底には沢山の枯れ葉が積み重なっている。)

この文を、論理式で表すと次のようになる。

(43') 有' (井底上, 干树叶) & 有' (干树叶, 好多) & 积' (好多) & 有' {积' (好多), 了}

この式は、「井戸の底に枯れ葉があり、枯れ葉が沢山あり、沢山 (の枯れ葉) が積み重なり、沢山 (の枯れ葉) が積み重なることが完了したという状態にある」という意味を表す。「有' (井底上, 干树叶)」は存在を表

し、「有’（干树叶、好多）」は存在物の量を表し、「积’（好多）」は事物が出現する動作を表す。「有’ {积’（好多），了}」は動作の完了を表すが、存在文の意味構造の中では完了した後の様子が持続していることを表す。

3.3 現象の結果状態の持続を表す：“长”類

この類の動詞は、無意志の自動詞（非対格自動詞）で、长、生、开、结、冻、亮、横、斜などの動詞がこの類に属す。

(44) 他的腿上生着一个疮。

（彼の足の上にできものが一つできている。）

この文を論理式で表すと次のようになる。

(44’) 有’（他的腿上，疮）& 有’（疮，一个）& 生’（一个）& 有’ {生’（一个），着}

この式は、「彼の足の上にできものがあり、できものは一つあり、一つができ、一つができたという現象の結果状態が持続している」という意味を表す。

この類の動詞も“了”を用いて存在文を構成できる。

(45) 他的脸上长了不少小包。

（彼の顔に沢山の小さな腫れ物ができている。）

この文を論理式で表すと次のようになる。

(45’) 有’（他的脸上，小包）& 有’（小包，不少）& 长’（不少）& 有’ {长’（不少），了}

この式は、「彼の顔の上には腫れ物があり、腫れ物が沢山あり、沢山の（腫れ物）ができ、沢山の（腫れ物）ができることが完了したという状態にある」という意味を表す。「有’ {长’（不少），了}」は、「沢山できることが完了した」という意味を表すが、存在文の意味構造の中では、「沢山の（腫れ物）ができた」という結果状態が続いていることを表す。

3.4 付着状態の持続を表す：“挂”類

この類の動詞は他動詞で、動作の結果動作の対象物がある場所に付着し、付着の状態が持続していることを表す。この類の動詞には、挂、放、搁、摆、贴、插、别、架、铺、垫、夹、压、挑、踩、盛、绕、缠、锁、堆、装、罩、盖、包、塞、陈列、排列などがある。これらの動詞は、「掛ける」「置く」「張る」「入れる」「並べる」などの意味の動作動詞で、目的語の事物は動作の「対象」（受け手）である。しかし、存在文の構造の中では、“着”あるいは“了”を伴い状態動詞として機能している。

動詞“挂”（掛ける）を用いた例には次のような文がある。

(46) 门上挂着一条精细的绿纱帘。(李临定 2011：曹禹)

（ドアの上に一枚の精巧な緑色の紗のカーテンが掛かっている。）

この文を論理式で表すと次のようになる。

(46') 有' (门上, 精细的绿纱帘) & 有' (精细的绿纱帘, 一条) & 由' {一条, u, 挂' (u, 一条)} & 有' {挂' (u, 一条), 着}

この式は「ドアの上に精巧な緑の紗のカーテンがあり、カーテンは一枚あり、一枚が誰かによって誰かが一枚を掛けることをされ、誰かが一枚を掛けた結果状態（付着）が持続している」という意味を表す。

最初の部分式の「有' (门上, 精细的绿纱帘)」は「ドアの上に精巧な緑の紗のカーテンある」という「存在」を表し、第二式の「有' (精细的绿纱帘, 一条)」は、「一枚」という量を表す。次の式では、存在の出現に関わる「誰かが～を掛ける」という動作の意味を記述する必要がある。この動作を論理式で表すと「挂' (u, 一条)」という二項関数で表せる。「u」は動作主を示す。各部分式は同時に成立しなければならないので、連鎖させる必要がある。そこで、「～ガ～ニヨッテ～コトヲサレル」という意味を表す関数として「由'」を用いて記述すると第三式の「由' {一条, u, 挂' (u, 一条)}」となる。第四式の「有' {挂' (u, 一条), 着}」は「挂'

(u, 一条)」という動作の結果対象物がある場所に付着し、その状態が持続していることを表す。自動詞で構成される存在文では存在物は「動作主」だが、この類のような他動詞で構成される存在文は、動作の「対象」が存在物である。そのため両者の部分式は異なるが、“V 着”を含む存在文の基本的な意味構造は共通している。第一式で存在文の基本的意味である「ある場所にある事物が存在する」という意味を「有’」関数を用いて表し、後方の式で動詞が表す意味特徴によって「事物がどのような状態で存在するか」という意味を加えている。

次に動詞“鎖”が用いられている例を見てみよう。

(47) 乡政府门上锁着一把大青铜锁。(李临定 2011：李准)

(村役場の門には、大きな青銅の錠前が掛かっている。)

この文を論理式で表すと次のようになる。

(47) 有’ (乡政府门上, 大青铜锁) & 有’ (大青铜锁, 一把) & 由’ {一把, u, 锁’ (u, 一把)} 有’ {锁’ (u, 一把), 着}

この類の動詞も“了”を伴い存在文を構成することができる。

(48) 大厅上面还挂了一块黑底金子匾额。(李临定 2011：丁玲)

(大広間にはまだ黒地の金の横額が掛かっている。)

この文を論理式で表すと次のようになる。

(48) 有’ (大厅上面, 黑底金子匾额) & 有’ (黑底金子匾额, 一块) & 由’ {一块, u, 挂’ (u, 一块)} & 有’ {挂’ (u, 一块) & 了}

この式は、「大広間には黒地の金の横額があり、黒地の金の横額は一つあり、一つが誰かによって誰かが一つを掛けることをされ、誰かが一つを掛けることが完了したという状態にある」という意味を表す。

3.5 動作の結果生じた事物の持続を表す：“绣”類

この類の動詞は、“挂”類と同様に他動詞だが、動詞と後続する名詞と

の意味関係が“挂”類とは異なる。“挂”類の事物は動作を受ける「対象」であるが、この類の事物が動詞に対して持つ役割は、動作の結果事物が生じるという「作為」(factitive) (fillmore1968)⁵⁾である。この類の動詞には、绣、织、印、刻、写、抄、画、涂、种、栽、补、点、洒、拉、吐、捆、绑などがある。

この類の動詞が用いられている文には次のような例がある。

(49) 睡衣上绣着朵朵玫瑰红的小花。(李临定 2011: 张抗抗)

(寝巻の上に、いくつものローズピンクの小さな花が刺繍してある。)

(50) 木牌上写着两个大字。(李临定 2011: 蒋子龙)

(木の看板の上に二つの大きな字が書いてある。)

(49) の文を論理式で記述すると次のようになる。

(49) 有' (睡衣上, 玫瑰红的小花) & 有' (玫瑰红的小花, 朵朵) & 由' {朵朵, u, 绣' (u, 朵朵)} 有' {绣' (u, 朵朵), 着' }

この式は、「寝巻の上にローズピンクの小さな花があり、ローズピンクの小さな花はいくつもあり、いくつものが誰かによって誰かがいくつも刺繍することをされ、誰かがいくつも刺繍した結果生じた事物が持続している」という意味を表している。

この類の動詞も、“了”を伴い存在文を構成できる。

(51) (高地) 上面种了一株葡萄、一株无花果。(李临定 2011: 茹志鹃)

(高地に一株のぶどうと、一株のイチジクが植わっている。)

この式の“(高地) 上面种了一株葡萄”の部分論理式で表すと次のようになる。

(51') 有' (高地上面, 葡萄) & 有' (葡萄, 一株) & 由' {一株, u, 种' (u, 一株)} 有' {种' (u, 一株), 了' }

この式は、「高地にぶどうがあり、ぶどうは一株あり、一株が誰かによって誰かが一株を植えることをされ、誰かが一株植えることが完了したと

いう状態にある」という意味を表している。

3.6 動詞が含意する位置への付着状態の持続を表す：“戴”類

この類の動詞には、戴、穿、拿、握、托、含、叼、背、扛などがある。これらの動詞は、“挂”類と同様に後続する名詞が表す事物は動作の「対象」であり、動作の結果対象物がその場所に付着し、付着の状態が持続することを表す。これらの動詞が“挂”類と異なるのは、文頭の「場所」の位置に現れる名詞が「頭」や「体」などの身体のある部分に限られている点である。これら身体部分を表す名詞は“他的头上”のように所有者を表す人称代名詞や人名詞を修飾語として伴うことが多い。

(52) 他的头上戴着一顶草帽。(李临定 2011)

(彼は頭に麦わら帽子をかぶっている。)

(53) 他的一身上穿着一件府绸大衫。(李临定 2011)

(彼は身に光沢のある平織りの長衣着物を着ている。)

(52) の文を論理式で記述すると次のようになる。

(52') 有' (他的头上, 草帽) & 有' (草帽, 一顶) & 由' {一顶, 他, 戴' (他, 一顶)} & 有' {戴' (他, 一顶), 着}

この類の動詞が用いられる文には、次のように文頭の名詞が「場所」ではなく人称代名詞や人名詞の場合もあるが、李临定はこれらも存在文に属すると述べている。

(54) 他戴着一顶草帽。(李临定 2011)

(55) 他穿着一件府绸大衫。(李临定 2011)

文頭が「場所」でなくても存在文あるとする根拠は、これらの動詞が示す場所はそれぞれの動詞によって明らかであるためである。たとえば、上記の“他戴着一顶草帽。”という文では、「彼が帽子をかぶる」という動作の結果「帽子」が付着している場所は、「彼の頭」であることは明白であ

る。つまり、“戴”（（帽子を）かぶる）という動詞には、動作の結果「帽子」が付着する位置が「頭」であるという意味が含意されていると考えられる。

李臨定は、この類の動詞が存在文において“了”を伴うことができるかどうかについては言及していないが、この類の動詞も存在文中で“了”を伴うことができる。

(56) 小姑娘头上戴了一朵花儿。(《汉语常用动词搭配词典》1984)

(少女の頭の上には、一輪の花が刺さっている。)

この文を論理式で表すと次のようになる。

(56') 有' (小姑娘头上, 花儿) & 有' (花儿, 一朵) & 由' { 一朵, 小姑娘, 戴' (小姑娘, 一朵) } & 有' { 戴' (小姑娘, 一朵), 了 }

4 動態存在文について

宋玉柱(1982)は、静態的でない動態的な存在文もあると述べ、これを動態存在文と呼び静態存在文と区別した。筆者は、宋玉柱が動態存在文として挙げている文は存在文の一種であると考えるが、宋玉柱が動態存在文中の“着”が動作の進行を表しているという主張には疑問を感じる。本節では、この問題について検討する。

4.1 宋玉柱(1982)の動態存在文の問題点

宋玉柱(1982)は、“墙上挂着一幅画”のような“着”を伴う存在文の“着”は動作後の静止状態を表しているというそれまでの見方に対し、存在文中の“着”には静止状態だけではなく動作の進行を表しているものがあるという意見を提出した。宋玉柱が挙げているのは次のような例文である。

(57) 天边游荡着几缕焰红的云彩。(宋玉柱 1982)

(58) 小路上走着几只活泼的“麻雀”。(宋玉柱 1982)

(59) 只见他额头上滚动着一颗颗汗珠。(宋玉柱 1982)

宋玉柱は、これらの文の動詞は、静止状態ではなく動作行為を表している、“着”は動作の進行を表していると述べている。宋玉柱は“着”を伴う静態存在文と上述のような動態存在文を共に“着”存在文の一類としているが、動詞の性質が異なると指摘している。宋玉柱の見方によれば、静態存在文中の動詞はもともと動作を表す動詞であっても“着”を伴うことで動作の後の状態の持続、すなわち静止状態を表すのに対し、動態存在文中の動詞は“着”を伴っても依然として動作性を保っているという。動態存在文に表れる動詞としては、“飄、奔、騰、泛动、翻騰、流动、燃烧、回荡、闪烁、浮动、闪、游动、散发、滚动、漂浮”を挙げ、これらの動詞の特徴は持続的動作を表し、自動詞である点であるとしている。動態存在文の“着”が動作の進行を表すと主張する根拠としては、静態存在文が動作の進行を表す副詞“正”、“在”と共に起できないのに対し、動態存在文は“正”、“在”を同時に伴うことができるからだと述べている。

(60) 我看到他古铜色爬满皱纹的脸上，那双深陷的眼睛里，跳动着明亮的火焰。

→……正跳动着明亮的火焰。(宋玉柱 1982)

(61) 清白的水波上闪耀着千百条金光。

→……在闪耀着千百条金光。

李临定(2011)も同様の見方を示している。李临定は存在文中の動詞の一類として、“飄、浮、漂浮、飞、翱翔、盘旋、游、晃动、浮动、活动、闪、烧、流行、滚、走、跑”を挙げ、“着”を伴う存在文の他の動詞が静態的で動作の進行を表していないのに対し、これらの動詞は動態的で動作の進行を表していると述べている。

確かに、これらの動詞はいわゆる静態存在文に現れる動詞とは異なっている。しかし、筆者は存在文中でこれらの動詞が動作の進行を表しているとする捉え方は適切ではないと考える。これらの動詞はこの存在文中では動作そのものではなく「泳いでいる」、「歩いている」、「きらめいている」、「漂っている」という状態を表している。これらは静的持続状態ではないが、時間の進行とともに変化すること表しておらずやはり持続状態を表しているといえる（動的持続状態）。また、存在文中の他の動詞と同様に「事物」がその「場所」に存在するという事実も表している。

(62) 池里游着五只母鸭，十分悠然。(李临定 2011：茹志鹃)

(63) 身后走着一对夫妇，男的比女的大着许多。(李临定 2011：老舍)

(64) 帽子上闪着一颗光辉的红色五星。(李临定 2011：丁玲)

(65) 发亮的水面上，漂着一个什么，好像是人。(李临定 2011：孟伟哉)

4.2 文が表す空間概念

存在文の本質な意味は、ある場所に事物が存在することにあり、事物と場所は切り離せない関係にある。事物と場所の関係を表す文の持つ空間概念が、文の本質的な意味と関わっていることについて、朱德熙（1982）は、次のように述べている。“躺”、“写”、“漂”などの動詞を用いた文（A₁）と“咳嗽”、“游泳”、“看”などの動詞を用いた文（A₂）は、空間概念が異なる。この違いは、「“在”＋場所＋動詞」を用いた（A₁）の文が「動詞＋“在”＋場所」を用いた文（B）に変換できるのに対して、（A₂）の文は（B）に変換できないことに現れている。

(66) 在床上躺着（A₁） → 躺在床上（B）

(67) 在黑板上写字（A₁） → 字写在黑板上（B）

(68) 在水面上漂着（A₁） → 漂在水面上（B）

(69) 在床上咳嗽（A₂） → *咳嗽在床上

(70) 在河里游泳 (A₂) → *游泳在河里

(71) 在飞机上看书 (A₂) → *书看在飞机上

朱德熙によれば、(A₁) 式の (66) ～ (68) の文では、文中の場所は事物（動作主または対象）が存在する位置を表している。一方、(69) ～ (71) の文では、文中の場所は事物が存在する場所ではなく、出来事が発生している場所を表していると述べている。また、「動詞+“在”+場所」を用いた (B) 式の文も (B₁) と (B₂) の二つの異なるタイプに分けられる。(B₁) は (A) 式に変換できるのに対し、(B₂) は (A) 式に変換できない。

(72) (船) 漂在水上 (B₁) → 在水上漂着

(73) 水桶掉在井里 (B₂) → *在井里掉水桶

朱德熙は、この違いは、(B₁) が「位置」を表し「静態的」であるのに対し、(B₂) は「方向」を表し「動態的」であるためであると分析している。また、(B₁) タイプは存在文に変換できるが (B₂) は変換できないことを指摘している。

(74) 病人躺在床上 (B₁) → 床上躺着病人（存在文）

(75) 水桶掉在井里 (B₂) → *井里掉着水桶

朱德熙の指摘は、文の持つ本質的特徴を捉えている。存在文との関係から見ると、(A) 式と (B) 式の相互変換が可能な“在”構文は存在文に変換できる。朱德熙は、これらの文に共通する特徴を、場所が事物の「位置」を表し、「静態的」であると述べているが、朱德熙が述べている「静態的」とは、動作や状態の開始時点と終息時点において場所が移動していないことを示している。このことについて、(74) と (75) の意味構造を記述して考察してみよう。(74) の“病人躺在床上”の意味構造を論理式で表すと次のようになる。

(74') 躺' (病人) & 在' (病人, 床上)

この式は、「病人が横たわる」ことと「病人がベッドの上」にいることが同時に成立することを表している。「病人」は、「横たわる」という動作の開始時点においても終息時点においても「ベッドの上」にいることを示している。次に、(75)の“水桶掉在井里”は次のような意味構造を持つ。(75') 掉' (水桶) & 到' (水桶、井里)

この式は「水桶が落ちる」ことと「水桶が井戸の中に至る」ことが同時に成立することを表している。「水桶」は「落ちる」という動作の開始時点では「井戸の中」ではなく、動作の終息時点に「井戸の中」にあることを示している。このように、この文の「場所」は動作の終息時点に事物が到達する場所であり、開始時点の場所からの「移動」を表している。朱德熙はこのような事物の移動を「動態的」と呼んでいる。

4.3 動態存在文についての本論の見解

朱德熙の空間概念に着目した分析に基づくと、存在文の特徴は「動態的」ではなく「静態的」とであるといえる。朱德熙が述べている「静態的」特徴を持つ存在文には、宋玉柱が分類している静態存在文と動態存在文の両方が含まれるが、宋玉柱の述べている「静態」と「動態」の捉え方は朱德熙の捉え方とは視点が異なっている。宋玉柱は、動態存在文中の“跳动”や“闪耀”などの動詞は持続動作動詞であり、これらが伴う“着”は動作の進行を表していると捉えている。しかし、“清白的水波上闪耀着千百条金光”の“金光”(金色の光)は“闪耀”(きらめく)という動作のどの時点においても、“水波上”(水しぶきの上)に存在している。宋玉柱が進行と捉えている状況は、動作の進行ではなく「ある場所できらめいている」という状態が持続していると捉えるべきである。「ある場所にあるものがある」という場面状況は、時間と共に変化するという概念を含まないので、存在文では“在/正在”が伴えない。宋玉柱は“跳动”や“闪耀”

などの動詞+“着”を含む存在文が、“在／正在”と共起できると述べているが、存在文の“在／正在”を含む文は、形式は同一であっても存在文とは異なる場面状況を表していると考えるべきではないか。たとえば、龔千炎（1995）は、次のような例を挙げ、状態動詞が“在／正在”を伴うと状態動詞は動作動詞になると述べている。

(76) 会客室里摆着沙发。(状態)

(77) 会客室里在摆沙发。(動作)

このように、“在／正在”を伴うと文が表す場面は状態ではなく活動を表すと捉えられる。

5 結びにかえて

本論では、「NP（場所）+ V（着／了）+ NP（存在物）」の形式の存在文について、形式意味論の述語論理を用いて意味構造を分析した。“V 着”存在文の意味構造は、「ある場所にある事物が存在する」という「存在」の意味に、「事物がどのような状態で存在しているか」という意味が動作の結果の持続の表示によって加えられた構造であることを提示した。“V 着”存在文は、動詞の持つ意味特徴により分類できるが、これらの動詞に共通するのは、動作によって事物の姿態や状態がある場所に位置するという空間概念と、動作の結果状態の持続を表す状態動詞として機能するという点である。静止状態を表す“V 着”存在文が“着”を“了”に換えても同様の意味を表せることについては、“V 着”存在文と“V 了”存在文が基本的に同じ意味構造を持つためであることを論理式で示した。

注釈

- 1) 動作の対象の意味役割は、中国語では一般に“受事”（動作の受け手）と呼ばれているが、本論

では「対象」に統一する。

- 2) 宋玉柱 (2004) 参照。
- 3) 范方莲 (1963)、《中国语文》第 5 期: p391。
- 4) 李临定 (2011)、《现代汉语句型 (增订本)》。(《现代汉语句型》1986 年)
- 5) フィルモア (1975: 77, 245) 参照。作為格 (factive) の設定は Fillmore 1968 において提示されたものである。作為格は、動詞の表す行為や状態から結果的に生じる事物や存在を示す。Fillmore (1971) では目的格 (goal) の下位分類として結果格 (resultative) と作為格 (factive) が吸収された。目的格は、述語で表される行為が行われた結果、存在するようになった事物の最終結果を示す。

参考文献

[中国語]

- 戴耀晶 1991. 〈现代汉语表示持续体的“着”的语义分析〉。《语言教学与研究》第 2 期。
- 范方莲 1963. 〈存在句〉。《中国语文》第 5 期。
- 范晓 2009. 《汉语句子多角度研究》。北京：商务印书馆。
- 方立 2000. 《逻辑语义学》。北京：北京语言大学出版社。
- 龚千炎 1995. 《汉语的时相时制时态》。北京：商务印书馆。
- 李临定 2011. 《现代汉语句型 (增订本)》。北京：商务印书馆。
- 刘月华等 2001. 《实用现代汉语语法 (增订本)》。北京：商务印书馆。
- 陆剑明 2005. 《现代汉语语法研究教程 (第三版)》。北京：北京大学出版社。
- 吕叔湘主编 1999. 《现代汉语八百词 (增订本)》。北京：商务印书馆。
- 聂文龙 1989. 〈存在句和存在句的分类〉。《中国语文》第 2 期。
- 潘文 2006. 《现代汉语存现句的多维研究》。南京师范大学。
- 宋玉柱 1982. 〈动态存现句〉。《汉语学习》第 6 期。
- 宋玉柱 1988. 〈略谈“假存在句”〉。《天津师大学报》第 6 期。
- 宋玉柱 1988. 〈存在句中动词后边的“着”和“了”〉。《天津教育学院学报》第 1 期。
- 宋玉柱 2004. 〈存在句研究历史上的一篇重要文章〉。《汉语学习》第 1 期。
- 王砚农・焦群・庞颀 1984. 《汉语常用动词搭配词典》(英语注释)。北京：外语教学与研究出版。
- 朱德熙 1962. 〈句法结构〉。《中国语文》1962 年。
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》。北京：商务印书馆。

[日本語]

白井賢一郎 1985. 『形式意味論入門一言語・論理・認知の世界』。東京：産業図書。

杉本孝司 1998. 『意味論 1—形式意味論—』。東京：くろしお出版。

フィルモア、チャールズ J. 著、田中春美・船城道雄訳 1975. 『格文法の原理一言語の意味と構造』。

東京：三省堂。

松村文芳 2017. 『現代中国語の意味論序説』。東京：ひつじ書房。